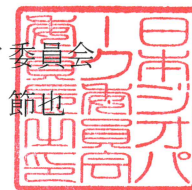


2021年3月11日

筑波山地域ジオパーク推進協議会  
会長 五十嵐 立青 様

日本ジオパーク委員会  
委員長 中田 節也



### 第41回日本ジオパーク委員会審査結果報告書

2021年2月5日に行われた第41回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここにご報告いたします。

#### 【総評】

この4年間、筑波山地域ジオパークでは、多様な人や組織のジオパーク参加が飛躍的に進んだ。教育・学術部会、市民活動部会、地域振興部会の3部会の活動が進展した結果、地域住民、市民団体、地元企業、研究機関などが、積極的にジオパーク活動へ参加するようになった。また、日本のジオパークにおいて地方議会が全面的にジオパーク活動を支援している事例がそう多くない中で、筑波山地域を構成する6市の市議会が「筑波山地域ジオパーク6市議会議員連盟協議会（通称：ジオ議連）」を結成し活動を始めたことは、特筆するに値する。6市長と6市議会によるジオパークへの理解と協力が、今後の筑波山地域の一体的発展に大きく寄与すると期待できる。

ジオガイドの育成とジオツアー開発、認定商品のブランド化に取り組み、ジオツーリズムの振興に成果が出始めている。多彩な認定ジオガイドが育成されたことにより、ジオツアーのユニバーサルデザイン化、防災教育への展開、ガイド時の安全管理に対する技能向上などの多様な活動が展開されるようになった。ジオツアーの開発に関しても、地域振興部会が中心となってジオツアーを開発および販売することで地域経済へ少しずつ貢献するようになった。さらに認定商品のブランド化によって、地元企業のジオパーク活動への参加が進んだ。

このように、筑波山地域ジオパークではジオパーク活動を推進する人や組織の活躍がめざましく、部会を中心にボトムアップ活動が進められつつある。前回の指摘事項に対しても解決に向けた取り組みが進んでいる。今後はジオサイトの見直しや教育活動の推進などの課題に対応しながら、ジオパーク活動を展開してほしい。

#### 【優れている点】

##### ・多様な人・組織のジオパーク参加

部会の活動や認定ジオガイドの育成が進み、地域住民、市民団体、地元企業、研究機関などの多様な人や組織が、ジオパーク活動へ参加するようになった。このことはボトムアップのジオパーク活動を推進するための基盤になるものである。今後はジオパーク活動の

中から環境問題、気候変動、地域課題へ対応するような活動も展開されることを期待する。

・ジオ議連の活躍

地域コミュニティの代表である市議会議員で構成されるジオ議連が発足したことは、この4年間の成果の一つであろう。ジオ議連が発足したことによって、議会のジオパークに対する理解が深まり、強力なパートナーとなっている。ジオパークと地方議会の関係についてはこれまでほとんど議論されていないことから、筑波山地域の取り組みは他地域の参考になるであろう。

・ユニバーサルデザインの取り組み

2018年度にユニバーサルデザインをテーマの一つとしたJGN関東大会を主催し、産業技術総合研究所地質標本館や国立科学博物館筑波実験植物園、筑波技術大学などの協力の下に、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れたツアーや分科会を実施した。今後も引き続き教材やジオツアーのユニバーサルデザイン化に取り組み、全国大会や研修会での情報発信や事例共有を行ってほしい。

・ジオパークによる地場産品のブランド化

2018年度に認定商品制度を開始し、3年で36品目が認定を受け、2021年3月時点で、34品目が販売されている。地域の物語やテーマを反映したさまざまな商品が認定され、同時に生産者の意欲も高い。今後はツーリズムや拠点施設等との連携、販路拡大等によって、地域経済の活性化に繋がることを期待したい。また、その事例を、全国大会や研修会で発表・共有してほしい。

**【今後の課題、改善すべき点】**

I 緊急に着手しないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. ジオサイトの再定義に伴うサイトの見直し

ジオサイトの再定義に伴うサイトの見直しが遅れており、その遅れが保全計画の策定、看板作成、ガイドブックの発行といった事業の遅延につながっているため、早急にサイトの見直しを完了する必要がある。

II できるだけ早く解決すべき課題（おおむね2年以内）

2. 学校教育との連携

小中学校の出前授業、高校の授業支援、大学の寄附講座など、学校教育が展開されているが、教育プログラム一覧や事例集も作成されておらず、教員や学校、教育委員会とが密に連携した教育活動の展開には至っていない。また、教育・学術部会では学術的な議論が中心であり、教育活動に十分に目配りされているとは言い難い。ジオパークにおいて教育は重要なテーマの一つであるため、教育・学術部会の分離や担当者の配置を含めて検討し、これまで以上に教育活動の推進に向けた取り組みを実施する必要がある。

3. 多様なジオツーリズムのあり方の検討

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ジオガイドが十分な活動を行えていないので、オンラインツアーを含む感染対策を施したツアー開発や拠点施設での活動機会の創

出など、多様なジオツーリズムのあり方について検討してほしい。あわせて、小道具の活用や資料の工夫、ユニバーサルデザインの取り組み、ハンズオン素材の開発、目に見える景色の説明の工夫など、ガイドスキルの向上を図ると同時に、地域振興部会とジオガイドが連携し、定期ジオツアーの実施、つくば霞ヶ浦りんりんロードの活用などにも着手してほしい。

### Ⅲ 解決すべき課題（3,4年先を視野に）

#### 4. 効率的かつ効果的な事務局運営体制の検討

アクションプランの進捗状況の確認や取り組みスケジュールなど、事務局内での共有を確実に図り、より効果的な事業運営となるように取り組んでほしい。また、2023年の中核拠点施設のオープンとそこへの事務局移転とあわせて、事務局の統合もしくは独立した運営組織の設立、専任スタッフの直接雇用など、筑波山地域にとって効率的かつ効果的な事務局運営体制を検討してほしい。

#### 5. 適正予算の検討

アクションプランを見ると予算措置が図られていない事業がある。次期基本計画およびアクションプランの策定とあわせて、財政については適正な規模を検討し、必要な事業への予算措置を検討してほしい。

#### 6. 拠点施設・学習施設の連携

筑波山地域には多数の拠点施設や学習施設が存在し、その質も高いものが多い。今後は拠点施設のネットワーク化を図り、一体的な活動を模索してほしい。また、認定商品の販路拡大という課題に対して、拠点施設での販売や市場調査の可能性もあわせて検討してほしい。

#### 7. 相互連携の推進およびパートナーシップの強化

この4年間でボトムアップの活動を推進する基盤が形成されつつある。次のステップとしては、部会やジオガイドの情報共有を促進し、相互連携を図ることであろう。ジオパーク活動を通じて地域の人や組織のつながりが強化されることで、地域課題や環境問題への取り組みも進み、ジオパークが持つ可能性や効果を具現化できると考える。SDGsの考え方なども積極的に取り入れながら、その成果を評価できるような手法を検討し、連携できる体制の構築につなげてほしい。そのプロセスでパートナーシップ協定の締結も検討してほしい。

#### 8. 看板や展示に関するテクニカルな課題およびアドバイス

- ・解説板に掲載されている地図に縮尺を入れ、さらに、周辺の見どころへの誘導の工夫を図ってほしい。
- ・解説板には、設置場所からは見えない地質学的な事象に関する説明が多いので、見えている景色の解説の掲載を検討してほしい。
- ・各拠点施設に展示してあるジオパークパネルやポスターは、文字数が多く、文字も小さいので、文字サイズや内容の工夫が必要である。

- ・各拠点施設において他のジオパークのパンフレットが置かれ、岩石標本が展示されているので、岩石標本の資料名の横にそれぞれのジオパークのロゴマークを入れるなど、他のジオパークとの繋がりが見えるような工夫があるとよい。

以上で指摘した点や現地審査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上